

タブ 1

「希望の選択」シンポジウム in 広島

一核兵器廃絶へ 新たな誓いを未来へー

開催概要

 日時: 2025年8月24日(日)13:30~17:30 (13:00開場)

 会場: 広島国際会議場 B2F・フェニックスホール

 主催: 創価学会インタナショナル(SGI)、核時代平和財団(NAPF)

 後援: 国連ユニタール協会

平和首長会議

核兵器をなくす日本キャンペーン

※イベントは主に英語で行われますが、同時通訳も提供されます。

プログラム

 13:30 映像上映

 13:35 歓迎挨拶 相島智彦(SGI平和運動局長)

 13:40 開会挨拶 イバナ・ヒューズ氏(NAPF会長)

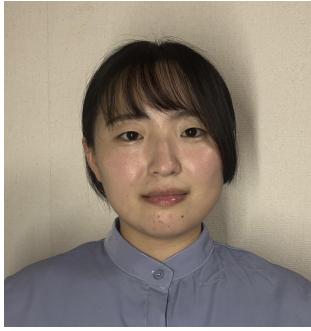
 13:50 被爆証言 東野真里子氏

 14:10 基調講演 アニー・ジェイコブセン氏

 14:30 被爆ピアノ演奏 酒井貴美子氏

 14:50 パネルディスカッション①

「核脅威との対峙:核兵器禁止条約、核の正義、そして核廃絶への道」



砂田智映(モデレーター)、イバナ・ヒューズ、クリスチャン・チオバヌ、土岐雅子、アニー・ジェイコブセン



16:05

休憩



16:15

パネルディスカッション②

「行動から希望を:遺産を継承し未来を築く」

ファンデルドゥース瑠璃(モデレーター)、森井爽、浅野英男、
ケネス・チウ、バレリヤ・ジェリエブツォバ



17:15 閉会挨拶 & アナウンス

登壇者紹介



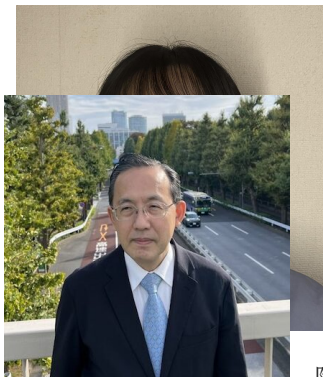
東野 真里子
被爆体験伝承者

公益財団法人広島平和文化センター委嘱・第1期生の被爆体験伝承者。広島
の被爆二世として、母・竹岡智佐子氏の被爆体験を受け継ぎ、講話活動を行っ
ている。**2016年**には、ピースボート主催「ヒバクシャ地球一周証言の航海」に参
加し、被爆二世として初めて乗船。**13**か国で被爆証言を行い、各国の政府関係
者や市民と交流を重ねながら、「核のない世界」への連帯を呼びかけた。**2017年12月**には、**ICAN**(核兵
器廃絶国際キャンペーン)のノーベル平和賞授賞式に際し、ノルウェー・オスロで開催された関連行事に
も参加している。



アニー・ジェイコブセン
作家、調査報道ジャーナリスト

ピューリッツァー賞の最終候補に選ばれたほか、ニューヨーク・タイムズのベストセ
ラー作家として知られており、戦争、兵器、政府の機密、国家安全保障に関する
調査報道で高く評価されている。最新著書『核戦争:シナリオ』(**2024年**)は、世
界的なベストセラーであり、核戦争がどのようにして現実となり得るかを、事実
に基づいたシナリオで描いた衝撃的なノンフィクション作品。日本語版が出版さ
れ、映画化も予定されている。また核兵器禁止条約第3回締約国会議にて基調講演を行っている。



相島智彦

創価学会インタナショナル(SGI) 平和運動局長

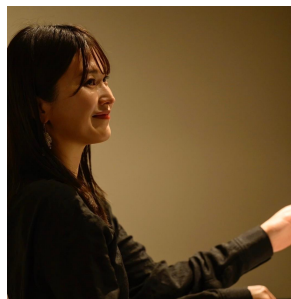
創価学会平和委員会議長、SGI平和運動局長。長年、創価学会の機関紙である聖教新聞の記者を務め、池田大作SGI会長とデイビッド・クリーガー博士の会見も取材した。創価大学大学院で英米法の修士号を取得。戸田記念国際平和研究所の評議員も務める。



イバナ・ヒューズ

核時代平和財団(NAPF) 会長

米コロンビア大学化学科上級講師。米スタンフォード大学で博士号を取得し、2008年からコロンビア大学の教員を務める。核時代平和財団の創設者の一人であるデイビッド・クリーガー博士の後任として、2022年に会長に就任。マーシャル諸島での核実験による放射能汚染についての研究で広く知られ、核兵器禁止条約(TPNW)の科学諮問グループのメンバーも務める。



酒井貴美子

ピアニスト／シンガー

4歳でピアノを始め、15歳からは声楽にも取り組んでいる。エリザベト音楽大学を卒業後、広島を拠点にピアノと歌の演奏活動をしている。2024年にはピアノ弾き語りアルバム『白に映して』をリリース。

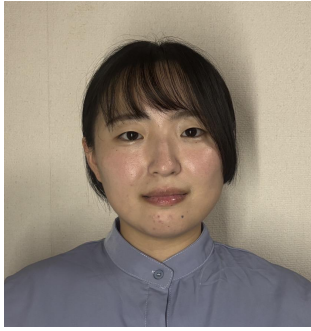
繊細で詩的な音楽で聴く人々に静かな感動を届けることを目指している。また、被爆ピアノでの演奏を通じて、平和への願いも込めている。



砂田 智映

創価学会インタナショナル(SGI) 軍縮・人権部長

核廃絶、人権教育、ジェンダー平等を担当。創価学会女性平和委員会では事務局長を務め、女性のエンパワーメントとリーダーシップにおいて中心的な役割



を果たしている。また戸田記念国際平和研究所の理事も務める。筑波大学で国際ビジネスの経営学修士(MBA)を取得している。

創価学会女性平和委員会では事務局長を務め、女性のエンパワーメントとリーダーシップにおいて中心的な役割を果たしている。また戸田記念国際平和研究所の理事も務める。筑波大学で国際ビジネスの経営学修士(MBA)を取得している。



クリスチャン・チオバヌ

核時代平和財団(NAPF) 政策・提言部長

Reverse the Trend: Save Our People, Save Our Planet プロジェクトコーディネーター

核時代平和財団の政策・アドボカシー部長、同財団の「**Reverse the Trend: Save Our People, Save Our Planet**」(RTT)プロジェクトのコーディネーターを務める。これまでに同財団のジュネーブおよびニューヨーク代表、マーシャル諸島代表部の顧問を歴任。マーシャル諸島代表部の顧問として、**2015年**の核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議、**2017年**の核兵器禁止条約の制定に向けた交渉会議に参加している。現在は、核兵器禁止条約(TPNW)に関してキリバス代表部の顧問を務め、同条約の第6条と第7条に関する非公式作業部会の共同議長とともに取り組みを推進している。ミドルベリー国際大学院(カリフォルニア州モンレー)で不拡散とテロリズム研究の修士号(MA)、ジュネーブ国際・開発研究大学院(スイス・ジュネーブ)で政治学の修士号(MA)を取得している。



土岐 雅子

ミドルベリー国際大学院ジェームズ・マーティン不拡散研究センター 上級プロジェクトマネージャー兼研究員

若い世代への軍縮・不拡散教育に尽力し、高校生・教員向け国際プログラム「クリティカル・イシューズ・フォーラム(CIF)」や「夏季不拡散フェローシップ・プログラム」を統括。研究分野は、日本の核軍縮政策、軍縮・不拡散教育、人道的アプローチ、市民社会の役割、核兵器禁止条約。日本軍縮学会会員、日米リーダーシップ・プログラム(米日財団)フェローも務めている。

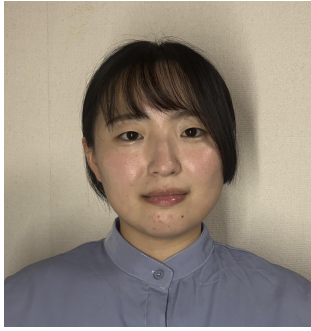


ファンデルドウス瑠璃

広島大学平和センター長

広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授

専門は、記憶学・平和学・応用言語学。英エディンバラ大学応用言語学科学修士、英ケンブリッジ大学で英語学・応用言語学哲学修士、英シェフィールド大学より社会科学博士号を取得。ケンブリッジ大学出版学術誌「**Memory, Mind & Media**」編集委員。アジア太平洋地域における「記憶学」発展に取り組んでいる。社会活



動として、広島市ピースツーリズム推進懇談会委員、広島平和記念資料館運営会議委員などを歴任。2025年に広島大学平和センター長に就任。

森井 爽

SGIユースメンバー

広島平和公園近くで生まれ、幼い頃より被爆体験を聞くなど、平和教育を受けて育つ。広島大学在学中には、創価学会広島学生平和委員会の一員として、学生平和意識調査に取り組み、その結果をまとめた展示を行った。広島大学大学院総合生命科学研究科を修了後、地元の化学メーカーにて開発職として勤務。感染症を防ぐ製品の研究に携わっている。



浅野 英男

一般社団法人 核兵器をなくす日本キャンペーンコーディネーター

1996年生まれ。茨城県出身。創価大学国際教養学部、神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程を卒業後、フルブライト奨学生として米国ミドルベリー国際大学院モンテレー校に進学。米中の核政策やNPT・核兵器禁止条約における核軍縮などを学び、2022年に修士号(不拡散・テロリズム学)を取得。

核兵器禁止条約の第1回・第2回・第3回締約国会議や第10回NPT再検討会議などに日本の市民社会の代表として参加。



ケネス・チウ

核時代平和財団(NAPF) コミュニケーション・メディアコーディネーター

核時代平和財団のコミュニケーション・メディア担当を務める。2021年1月には、“Reverse the Trend: Save Our People, Save Our Planet”(RTT)の立ち上げにおいて、中心的な役割を果たした。このプロジェクトは、核兵器と気候変動が、特に周縁化されたコミュニティに与える悪影響について、世界中の若者の意識を高めることを目的としている。チウ氏は、こうした活動を通じて核兵器の世界の実現を訴え続けるとともに、持続可能な平和の実現には、若者の関与と教育が重要であると強調している。



バレリヤ・ジェリエブツォバ

核時代平和財団(NAPF)インターン／コロンビア大学学生

コロンビア大学の3年生で、応用数学と認知科学を専攻しており、神経経済学を専門としている。

昨年夏、太平洋諸島における核兵器実験の影響に焦点を当てたK=1プロジェクトの研究を実施。この問題への取り組みを継続し、核時代平和財団の若者代表として、核兵器禁止条約第3回締約国会議と2025年核不拡散条約(NPT)再検討会議準備委員会に参加した。この経験を通じて、公共政策と核軍縮の接点に強い関心を抱くようになった。

この夏、核時代平和財団(NAPF)のインターンとして、核兵器に関連するリスクへの認識を高め、核軍縮を推進する組織の取り組みを支援。その役割の一環として、同財団主催のサダコ・ピース・デーの開催に携わり、また今回、本シンポジウムに参加している。

「希望の選択」シンポジウム宣言

- [Choose Hope Symposium Declaration, March 2025 \(英文\)](#)
- [「希望の選択」シンポジウム宣言\(2025年3月\)\(日本語\)](#)

アメリカ・サンタバーバラ市内で開催された第1回シンポジウム(2025年3月)での議論をもとに作成された宣言です。

お問い合わせ先:
創価学会インタナショナル(SGI)
contact@peacesgi.org
